

研究班番号【 3 】
表情の認知～顔写真から考える～

3班:大和 さくら、阿部 颯香、後藤 環、松島 明

Abstract

The purpose of this study is revealing which parts of the face to judge emotions. Mouth, organ which can read emotions can suppress movement easily. According to previous research, Individualism Westerners are allowed to assert themselves. On the other hand, collectivism Japanese is recommended not to assert themselves. Therefore, Westerners judge emotions from mouth and Japanese judge it from eyes. We suppose people can guess emotions by looking eyes if the other person is Japanese. In addition, in order to decipher exactly emotions of the other person. This study concludes that parts of focusing on is different. It depends on the emotion and surrounding environment if the emotion is disguised.

要約

本研究の目的は顔のどの部分を見て感情を読み取るのかを明らかにすることである。感情を読み取るのに適した器官である口は簡単に動きを抑制することができる。そのため自己主張することを肯定される個人主義の欧米人は口、自己主張を抑えることを推奨される集団主義の日本人は目を見て判断するという先行研究から顔のどの部分を見ることで感情を察することができるかについて研究を行った。また、感情が偽装される状況を想定した研究も行った。感情によって注目すべき部分は異なり、感情が偽装される場合は周囲の状況にも大きく左右される。

1. はじめに

コロナ禍におけるマスクの着用により表情から感情を読み取る力が低下し、乳幼児期の発達に悪影響を及ぼしているというニュースに興味を持った。そこで、特定の表情を読み取る際に顔のどのパーツを見て判断しているのかを明らかにすることで、コミュニケーションを円滑にし、人間関係を構築する助けになることを目的として研究を行った。

2. 研究手法

「100,000 AI-Generated Facea」を使用し現実に存在しない顔写真を作成し、アンケートを行った。

《実験1》

①嬉しい、怒り、悲しい、驚きの4つの感情を作るためには用意した右図の顔写真の眉、目、口のうちのどのパーツを変化させるかについて質問した。

②顔のパーツごとに集計し、感情による違いを見た。

《実験2》

①5つの用意したシチュエーションで現れる感情、表情について質問し、感情偽装の有無について調べた。以下5つのシチュエーションを示す。

1.すでに持っているものを人からプレゼントしてもらったとき:悲

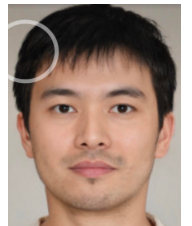
2.相手の年齢が思っていたよりも下だったとき:驚

3.テストで高得点を取ったが、仲のいい友達は悪く、とても落ち込んでいるとき:嬉

4.腹がたつことをされたが雰囲気壊したくないとき:怒

5.自分の知らないトピックの話題がでたとき:嫌悪

②アンケート結果から偽装が起りやすい感情や場面を調べた。



3. 結果

《実験1》

＊回答結果の多い順に左から示す

嬉しい表情 : 口、目、眉毛

怒っている表情: 眉、目、口

悲しい表情 : 眉、目、口

驚いている表情: 目、口、眉

《実験2》

実験2の5つの状況では相手の気持ちに付度しようとするため、嬉しい、悲しい、怒りの感情が偽装されやすい。日常会話やネガティブな感情を隠したい際に感情偽装を行っている人が多い。

4. 考察

《実験1》

嬉しい表情では、笑顔として口に表れやすく、相手に感謝を伝えることが多いため口を見て判断する人が多い。

怒っている表情では、怒ると全体に力が入り、眉が釣り上がるため眉を見て判断する人が多い。

悲しい表情では、目が充血したり、眉の角度が下がるため目や眉を見て判断している人が多い。

驚いている表情では、驚いたものを見ようとしたり、勢いがあるため目を見開くため目を見て判断する人が多い。

各表情を作るにあたって自分がその表情を作るときによく動かすパーツに注目すると考えられる。

研究結果で得られたパーツを見ると、相手の感情を理解しやすい。

《実験2》

悲、怒などネガティブな感情は、周りの状況がこれらの感情と異なる時、周りの雰囲気を壊さないようにするため抑制されることが多い。

5. 結論

人は相手の感情を読み取るにあたって、注目するパーツが表情によって異なる。

しかし、感情偽装がはたらいっている場合もあるため、相手との関係性や状況を考慮することで円滑なコミュニケーションをとることができる。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

岐阜大学 郷田賢・宮本正一 “感情の判断における顔の部位の効果”

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjpsy1926/71/3/71_3_211/_pdf

(2023-7-10)

マスクで表情が見えない...子供の発達に影響? 「褒めても反応薄い。声かけてもポカン」保育現場から懸念の声 https://373news.com/_news/storyid/169872/

(2023-6-16)

井上弥 感情表出の偽装経験からみた感情の特性

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsre/15/2/15_2_71/_pdf/-char/ja